

【様式1】 令和元年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	恵那市	学校名	恵那市立串原小・中学校		
校長名	松野光宏	対象学年	全学年	人数	㊶ 31 ㊷ 15 人
項目 <small>該当する項目に ○をつける</small>	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し、取り組んだ実践			
活動のねらい	ふるさとコミュニティによる小中一貫ふるさと教育を核とし実践することを通して、ふるさとへの誇りと愛着を深め、地域社会に貢献できる児童生徒の育成を図る。				
<p><b>1 願う児童生徒の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと串原の良さを実感し、愛着を抱くことができる子。</li> <li>ふるさと串原の良さに誇りをもち、守っていきたいと思うことができる子。</li> <li>ふるさと串原の活性化のために、自分にできることは何かを考え、発信することができる子。</li> <li>ふるさと串原を基盤に自分の進路について考え、地域社会人として活躍したいという思いを高めることができる子。</li> </ul> <p><b>2 実践内容</b></p> <p>① <u>学校と地域に存在する諸団体や各保存会を組織化、体系化し、連携を強化するふるさとコミュニティの確立</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会との連携 今年度初めの学校運営協議会では、今年度のふるさと学習の年間計画や、地域と連携して実践したい内容の確認など今年度の方向性に対して一緒に検討した。</li> <li>ふるさと学習講師連絡協議会の見直し 小・中学校のふるさと学習では、年間を通して約20名の地域講師とササユリ保存会と串原ホタル保存会、串原歌舞伎保存会、中山太鼓保存会が関わっている。 今年度より、年1回の実施を年2回の実施とした。1回目は、昨年度の成果と課題を基に、願う児童生徒の姿や今年度の年間指導計画や指導内容の検討を地域講師と一緒に吟味した。 2回目は、年度末に実施し、今年度のふるさと学習の実践から成果と課題や、次年度のふるさと学習でどんな実践をしたいか等、方向性について地域講師達と意見を交流した。</li> </ul> <p>② <u>小中9年間のふるさと学習を系統化し、地域と関わり、主体的・対話的で深い学びとなるための指導援助の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫9年間のふるさと教育の単元系統図の明確化 学校と地域の共通の願いである「ふるさと再生の担い手の育成～串原スピリッツの確立～」 将来串原で生活してもしなくても自分の生き方の根底にあるのはふるさと串原であるという意識を高めるといふねらいから、9年間のふるさと学習の単元系統図を検討し、整理した。</li> <li>ふるさと学習を核とした他教科との繋がりを明確にするカリキュラム・マネジメント表の作成 ふるさと学習を核としたカリキュラム・マネジメント表を作成することで、指導者である担任が、ふるさと学習と教科のつながりを意識し、授業を構築していくことができた。さらに、各教科でのつながりを意識して授業を構築していったことで、児童生徒が自らそのつながりに気付くようになってきている。</li> </ul> <p>③ <u>地域活性化に向けて、自分たちの思いを実現していく発信力の育成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に地域活性化に向けた発信の必要性を感じることができる単元構成の工夫 地域講師の思いや願いを子ども達に伝えることこそが、児童生徒のふるさと串原に対する思いを深めることに繋がるのではないかと考え、全学年、全単元の構成を次のように工夫した。単元の導入では、地域講師がその単元に関わって自分の思いを児童生徒に伝える。→単元に関わって、地域がしていることについて学習する。→単元に関わって、自分たちができることについて考える。→地域講師の助言を受けながら、地域活性化に向け企画、運営をする。</li> </ul>					

